

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和8年度（2年次用）教科

理科

科目 物理基礎

教科：理科 科目：物理基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組：小坂）（2組：常盤）（3組：常盤）（4組：常盤）（5組：小坂）（6組：常盤）

使用教科書：（東京書籍「新編 物理基礎」）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察・実験などを通して、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理における単位を理解し、物理の法則のつながりや数値計算、グラフの意味が理解できる。	物理的な現象を観察・実験し、定性的、定量的に原因から論理的に結果を考え、表現することができる。	身の回りにある自然を物理的に見ようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 物理量の測定と扱い方 【知識及び技能】 誤差、有効数字、指数表示がわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 有効数字が必要な理由が説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 身の回りにおける物理量と測定方法、結果についての数値の考え方を知らうとしている。	・指導項目 有効数字 指数表示 ・教材 教科書 参考書 プリント ・一人一台端末の活用	【知識・技能】 ①誤差、有効数字、指数表示がわかる 【思考・判断・表現】 ①測定と有効数字と誤差について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①身の回りにおける物理量と測定方法、結果についての数値の考え方を知らうとしている。	○	○	○	2
	B 運動の表し方 【知識及び技能】 ものの移動について物理的にとらえる手法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 速さと速度の違いや平均と瞬間の速さの違いを理解して、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 授業に積極的に参加し、身の回りの現象を速度に関して観察しようとしている。	・指導項目 変位、速度、加速度 a-tグラフ、v-tグラフ、x-tグラフ ・教材 教科書 参考書 プリント ・一人一台端末の活用 ICTを用いた実験結果のまとめと発表	【知識・技能】 ①速さの式がわかる。 ②x-t図、v-t図がわかる。 ③合成速度、相対速度がわかる。 【思考・判断・表現】 ①速さと速度の違いを説明できる。 ②平均の速さと瞬間の速さの違いを説明できる。 ③グラフと式を結び付けて、物理現象を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①身の回りの速度に興味を持ち、授業に積極的に参加している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	C 様々な力とその働き 【知識及び技能】 力は物体の変形や運動状態の変化の原因となることを理解する。力は向きと大きさをもった量[N]であることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な力について、その規則性や関係性を見出して表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 授業に積極的に参加し、身の回りの現象を力の法則から考えて調べようとしている。	・指導項目 様々な力の働き 慣性の法則 運動方程式 作用反作用の法則 ・教材 教科書 参考書 プリント ・一人一台端末の活用 実験の予想等をteamsで発表する。	【知識・技能】 ①重力、垂直抗力、摩擦係数、張力、弾性力について、理解している。 ②力がベクトル量であることを認識し、力の合成と分解ができる。 ③つりあいの式がたてられる。 ④作用・反作用の力とつりあいの力の違いがわかる。 ⑤物体が力を受けるときの運動状態がわかる。 ⑥物体について運動方程式がたてられる。 ⑦摩擦力の向きがわかる。 ⑧静止摩擦係数は一定ではないことと動摩擦係数は一定であることを理解している。 ⑨静止摩擦係数と動摩擦係数を求めることができる。 ⑩圧力を求める式を理解している。 ⑪水圧を求める式を理解している。 ⑫水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 【思考・判断・表現】 ①重力の大きさと質量のちがいがわかる。 ②作用・反作用の力とつりあいの力の違いを説明できる。 ③慣性の法則による現象を説明できる。 ④運動方程式を用いて、どのように物体が運動するか説明できる。 ⑤物体に働く摩擦係数について説明できる。 ⑥気圧の意味を説明できる。 ⑦水中にある物体に、どのように水圧が加わり、どのような浮力が働くかを考え、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①「力」がどのようなものか知らうとしている。 ②力が「つりあう」とはどういう意味か具体例から考えようとしている。 ③物体の運動状態と力にどのような関係があるのか考えようとしている。 ④摩擦係数とはどのようなものか身近な具体例から考えようとしている。 ⑤気圧や水圧について、「圧力」という意味から考えようとしている。 ⑥実験を通して、物理法則を探索しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	D 仕事と力学的エネルギー 【知識及び技能】 物理において「仕事」が何を意味しているかを知る。そして、力学的エネルギーである運動エネルギーと位置エネルギーの定性的な理解と、定量的な計算ができるようになる。また、力学的エネルギー保存の法則を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 仕事になるときと、仕事にならないときの違いが判断できる。また、力学的エネルギーが保存するときと保存しないときの違いを判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身の回りの現象について、力学的エネルギーが保存していることを見出そうとする。	・指導内容 仕事 仕事率 力学的エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー保存則 保存力 ・教材 教科書 参考書 プリント シミュレーションを使った演示 ・一人一台端末の活用 予想をteamsで発表	【知識・技能】 ①仕事、仕事率を計算して求めることができる。 ②物体に対して力が働いていても、仕事は0の時もあり、それがどのようなときであるかを理解している。 ③滑車を使った時の力と仕事の関係がわかる。 ④運動エネルギーが計算できる。 ⑤重力による位置エネルギーを計算できる。 ⑥弾性力による位置エネルギーを計算できる。 ⑦仕事は運動エネルギーになることや、保存力がした仕事は位置エネルギーになることを理解する。 ⑧力学的エネルギーが保存することを理解する。 ⑨物体に保存力以外の力が加わると、その力がした仕事の分だけ、力学的エネルギーが変化することを理解する。 ⑩力学的エネルギーは保存力が働くときにのみ保存することを理解する。 【思考・判断・表現】 ①物体に力が働いて、「仕事」をするとはどういうことか説明できる。 ②「仕事の原理」から現象をとらえて、説明することができる。 ③運動エネルギーがどのようなものか説明できる。 ④重力による位置エネルギーがどのようなものか説明できる。 ⑤弾性力による位置エネルギーがどのようなものか説明できる。 ⑥力学的エネルギーが何かを説明できる。 ⑦力学的エネルギーの観点から物体の運動を考察することができる。 ⑧現実の物体の運動は力学的エネルギーの保存則に従っていないように見える理由を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①物理でいうところの「仕事」を理解しようとしている。 ②運動している物体がもっているエネルギーについて考えようとしている。 ③目には見えない位置エネルギーがどういったエネルギーか身の回りの現象からつかもうとしている。 ④力学的エネルギーに興味をもち、身の回りの現象を力学的エネルギーの観点からとらえようとしている。 ⑤実験・観察を積極的に行い、現象から物理法則を見出そうとしている。	○	○	○	10
	2 定期考査			○	○		1
	E 熱とエネルギー 【知識及び技能】 温度と分子の関係や熱と仕事の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 熱が移動することと内部のエネルギーが変化することを理解し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 熱機関がどのようなものか具体例を含めて知ろうとしている。	・指導項目 熱 温度 熱量 比熱 熱量保存 熱力学第一法則 物質の三態 熱機関 ・教材 教科書 参考書 プリント ・一人一台端末の活用 熱機関の映像とシミュレーションをいじってみる。	【知識・技能】 ①ブラウン運動の意味がわかる。 ②温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。 ③熱量と比熱の関係を理解している。 ④熱量の保存を理解している。 ⑤状態変化の時の熱の移動を理解している。 ⑥内部エネルギーについて理解している。 ⑦熱力学第一法則を理解している。 ⑧熱機関と熱機関の効率について理解している。 【思考・判断・表現】 ①温度を原子分子の観点からとらえ、考え、説明することができる。 ②熱量とエネルギーの関係を説明することができる。 ③熱機関について説明することができる。 ④不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①身の回りの現象を熱とエネルギーの観点からとらえようとしている。 ②具体的な熱機関を考えようとしている。 ③実験を通して、熱と仕事やエネルギーの法則を積極的にとらえようとしている。	○	○	○	7
	G 物質と電気抵抗 【知識及び技能】 電流は電子の流れであることを理解し、抵抗は物質に依存することを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 電子の流れがどのように電流の働きをし、抵抗がなぜ電力を消費するかを考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 静電気という身近な現象から、電気の本質は電子であることに気づき、身の回りの現象を電子の観点からとらえようとしている。	・指導事項 電流 電圧 抵抗 直列回路 並列回路 ・教材 教科書 参考書 プリント ・一人1台端末の活用 等 復習問題をteamsにあげる 実験の予想を共有する	【知識・技能】 ①物体が帯電するしくみについて理解している。 ②導体・不導体・半導体の違いについて理解している。また、物質によって異なることも理解している。 ③電流が電子の流れであることを理解し、電圧についても理解している。 ④オームの法則について理解している。 ⑤直列・並列回路について理解している。 ⑥電力を計算できる。 【思考・判断・表現】 ①拍検電器の動きを電子の移動で説明することができる。 ②導体・不導体・半導体の違いを電子の観点から説明できる。 ③電流を電子を用いて説明できる。 ④ジュール熱の仕組みを電子の観点から説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①身の回りの電気に関する現象を館得ようとしている。 ②習ったことをもとに現象をとらえようとしている。 ③実験を通して、積極的に電気についての法則を探究しようとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1

3 学 期	Ⅱ 波の性質 【知識及び技能】 波動とはどのようなものか理解する。波をグラフに示せる。波の重ね合わせの原理を理解する。波の反射と定在波についても理解する。また、縦波と横波の違いを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 うなりや共振、その他波に関する現象について、波の性質から考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身の回りの波の性質をもつもの、例えばギターなどから波について深く知ろうとしている。	・指導項目 波の性質 重ね合わせの原理 自由端反射 固定端反射 定在波 縦波、横波 うねり、共振 音と波の関係 ・教材 教科書 参考書 プリント ウェーブマシン シミュレーション映像 ・一人一台端末の活用 グラフの作成	【知識・技能】 ①周波数と周期の関係が理解できる。 ②速さと周波数と波長の関係がわかる。 ③縦波と横波の違いがわかる。 ④波の重ね合わせの原理が理解できる。 ⑤定在波の生じる仕組みがわかる。 ⑥自由端反射と固定端反射を理解している。 ⑦音が波であることを理解している。 ⑧うなりを理解し、計算できる。 ⑨固有振動数を理解し、計算できる。 【思考・判断・表現】 ①グラフから波の性質を読み取ることができる。 ②定在波が発生する条件を説明できる。 ③音の特徴づける3つの要素、大きさ、音色、高さ、が物理的に何に由来するのかを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①身近な波の現象に興味をもち、積極的に調べようとしている。 ②実験を通して、波の性質を積極的に探ろうとしている。	○	○	○	11
	Ⅲ 交流と電磁波 【知識及び技能】 交流は時間とともに変化することを理解し、そのメリットとデメリットを理解する。電磁波は波長によって呼ばれ方が違うことを理解する。またその利用を知る。 【思考力、判断力、表現力等】 交流のメリットからどういふときに使うとよいかを考えられる。また、デメリットをどのようにカバーするかを考えられる。電磁波の波長と性質を結び付けて考えられる。 【学びに向かう力、人間性等】 身の回りの交流や電磁波の利用を考えている。	・指導事項 交流 電磁波 ・教材 教科書 参考書 プリント 映像等 ・一人1台端末の活用 等 交流が使われているところを調べて共有する。電磁波も同様に使われているところがあったら 共有する。	【知識・技能】 ①交流電圧について理解している。 ②変圧器と送電について理解している。 ③電磁波と波長の関係を理解している。 ④電磁波の利用について知っている。 【思考・判断・表現】 ①交流の特性からどのような利用がよいか考えられる。 ②交流を家庭でつかうにはどうすればよいか説明できる。 ③電磁波の波長と利用方法の関係を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①身の回りの交流や電磁波の利用を積極的に知ろうとしている。	○	○	○	2
	Ⅳ エネルギーとその利用 【知識及び技能】 エネルギーの種類を理解する。そして、その様々なエネルギーを利用する場面を知る。また、そのエネルギーには保存則が働くことを理解する。原子力の仕組みを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 エネルギー同士の関係を理解して、火力、原子力発電等の違いと共通点を説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 世の中のエネルギーについて、積極的に知ろうとする。	・指導事項 様々なエネルギー 原子力エネルギーの取り出し方 ・教材 教科書 参考書 プリント シミュレーション ・一人1台端末の活用 等 世の中のエネルギーについて、気になった記事などを共有する。	【知識・技能】 ①エネルギーの種類を知っている。 ②エネルギーの利用場面を知っている。 ③エネルギーは保存されることを理解している。 ④原子力エネルギーとその利用を理解している。 【思考・判断・表現】 ①エネルギー同士の関係を理解している。 ②様々な発電について共通点を把握して、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世の中のエネルギーについて、積極的に知ろうとしている。	○	○	○	2
	定期調査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和8年度（2 年次用）教科

理科

科目

生物基礎

教 科： 理科

科 目： 生物基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1 組： 海老澤 （2 組： 海老澤 ）（3 組： 佐藤 ）（4 組： 海老澤 （5 組： 海老澤 （6 組： 佐藤 ）

使用教科書：（183 第一 生基 183-902 高等学校改定新生物基礎 ）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】観察・実験などを通して、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 A 単元 【知識及び技能】 生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解するとともに、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 細胞におけるDNAのはたらきについて理解し、それらについて考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 原核細胞と真核細胞について、細胞に含まれる細胞小器官をもとに、違いを理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。② 授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 生物の共通性と多様性について理解している。 【思考・判断・表現】 細胞におけるDNAのはたらきについて理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 原核細胞と真核細胞について、細胞に含まれる細胞小器官をもとに、違いを理解しようとする。	○	○	○	3
	2節 生物とエネルギー 【知識及び技能】 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解し、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、ATPと関連づけて考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 原核細胞と真核細胞について、細胞に含まれる細胞小器官をもとに、違いを理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。② 授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 【思考・判断・表現】 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、ATPと関連づけて考察し、それを表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 DNAが二重らせん構造であること、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解し、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 DNAの複製を塩基配列と関連付けて考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見出し、理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。② 授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 DNAが二重らせん構造であること、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 【思考・判断・表現】 DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見出し、理解しようとする。	○	○	○	4
	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 【知識及び技能】 DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しそれらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。② 授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 【思考・判断・表現】 DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 【知識及び技能】 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解し、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 肝臓や腎臓の機能を理解し、人体についての理解を深めようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。②授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 【思考・判断・表現】 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 肝臓や腎臓の機能を理解し、人体についての理解を深めようとする。	○	○	○	9
	2節 体内環境の維持のしくみ 【知識及び技能】 神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解し、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見出し、理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。②授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 【思考・判断・表現】 血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見出し、理解しようとする。	○	○	○	8
	定期検査			○	○		1
	3節 免疫 【知識及び技能】 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解し、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。②授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 【思考・判断・表現】 病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとする。	○	○	○	9
3 学 期	第4章 生物の多様性と生態系 1節 生態系とその成り立ち 【知識及び技能】 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解し、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 資料に基づいて、遷移の要因を見出して考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料に基づいて、植生が変化する要因を見出し、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。②授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 【思考・判断・表現】 植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 資料に基づいて、植生が変化する要因を見出し、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする。	○	○	○	8
	定期検査			○	○		1
	2節 植生とバイオーム 【知識及び技能】 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解しそれらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。②授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 【思考・判断・表現】 気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。	○	○	○	9
	3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全 【知識及び技能】 生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解し、それらに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする態度を養う。	【指導】黒板やPowerPoint等を使用。視覚的な学習の機会を増やす。 【教材】教科書・問題集・授業プリントを活用、問題集はノート等に引き提出。 【一人1台端末の活用】①Teamsに「復習用資料」を置き、活用できるようにする。②授業中にWebテストを実施する。	【知識・技能】 生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。 【思考・判断・表現】 生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。	○	○	○	8
定期検査				○	○		1
							合計
							70

東久留米総合 高等学校 令和8年度（2 学年用） 教科

保健体育

科目 体育

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（１～６組：長岡） （１～６組：加藤） （１～６組：齊藤） （１～６組：大塚） （１～６組：吉田）

使用教科書：（ ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】個々の運動能力や特性を把握した上で、各種目の技術力を向上させる

【思考力、判断力、表現力等】協働して実技を行い、ルールを把握し守る態度を身に付けさせる

【学びに向かう力、人間性等】自ら学び、主体的に取り組む態度を身に付けさせる

科目 体育 の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	オリエンテーション 体育理論 柔道 バスケットボール	プリントを説明し、理解を深める。 多くの種目のルール把握する。 授業の心得・決まりの周知徹底させ、自らの課題として捉える。	観察、積極性	○	○	○	5
	ソフトボール バスケットボール 柔道 テニス バドミントン 体育祭練習	用具の安全な取り扱いを徹底し、事故防止を徹底する。 ラケットの基本動作・応用動作を身に付ける。 柔道の各種の立ち技・抑え込み技等 を習得する。 クラスの連帯感を深め、体育祭の円滑且つ安全な運営につなげる。	観察、実技、技能テスト	○	○	○	12
	定期考査						
	ソフトボール バスケットボール 柔道 テニス 水泳 新体力テスト	用具の安全な取り扱いを徹底し、事故防止を徹底する。 ラケットの基本動作・応用動作を身に付ける。 基本的なボール操作と試合を楽しむ技術を身に付ける。 柔道の各種の立ち技・抑え込み技等 を習得する。 グループやチームで活動する。 近代4種目の内、背泳ぎ、バタフライを習得する。長く又は速く泳ぐ技能を身に付ける。	観察、実技、技能テスト	○	○	○	14
	定期考査						
2 学 期	バスケットボール 水泳 柔道 テニス サッカー バドミントン ソフトボール	用具の安全な取り扱いを徹底し、事故防止を徹底する。 ラケットの基本動作・応用動作を身に付ける。 基本的なボール操作と試合を楽しむ技術を身に付ける。 柔道の各種の立ち技・抑え込み技等 を習得する。 グループやチームで活動する。 近代4種目の内、背泳ぎ、バタフライを習得する。長く又は速く泳ぐ技能を身に付ける。	観察、実技、技能テスト	○	○	○	27
3 学 期	持久走	3～5キロの持久走を実施する。	観察、実技	○	○	○	12
							合計
							70

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健
教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位
対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組
教科担当者：（1組：加藤） （2組：吉田） （3組：長岡） （4組：加藤） （5組：長岡） （6組：吉田）
使用教科書：（現代高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：
【知識及び技能】個々の運動能力や特性を把握した上で、各種目の技術力を向上させる
【思考力、判断力、表現力等】協働して実技を行い、ルールを把握し守る態度を身に付けさせる
【学びに向かう力、人間性等】自ら学び、主体的に取り組む態度を身に付けさせる

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人および社会生活における健康・安全について理解を深める	自ら学んだことを発表し、人に伝えることでより学びを深める	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	体のつくりと働き 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択	健康について考え、異性の体のつくりや性意識について学ぶ。また、避妊法など性行動について正しく理解を深める。	観察、ノート記入、プリント記入、発言	○	○	○	6
	4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康	健康について考え、異性の体のつくりや性意識について学ぶ。また、避妊法など性行動について正しく理解を深める。	観察、ノート記入、プリント記入、発言	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
2 学 期	発表	自ら学んだことを発表し、人に伝えることでより学びを深める	観察、ノート記入、発言、発表	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学 期	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用	我が国における保健サービスや医療保険のしくみについて説明できる	観察、ノート記入、プリント記入、発言	○	○	○	10
							35

高等学校 令和 8 年度（2 学年用）教科		外国語	科目	論理・表現Ⅱ
教科：外国語	科目：論理・表現Ⅱ	単位数：3	単位	
対象学年組：第 2 学年 1 組～	6 組			
教科担当当者：（1 組：三輪）	（2 組：関野）	（3 組：磯貝）	（4 組：磯貝）	（5 組：三輪）（6 組：関野）
使用教科書：（Vision Quest English Logic and Expression II Hope）				

の目標：

日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書くための文法を身に付けることができる。

日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いたり、話して伝えたりすることができる。

日常的な話題について、基本的な語句を使って、主体的にペアやグループで話し合ったり、発表したりすることができる。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書くための文法を身に付けることができる。	基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して書いたり、話して伝えたりすることができる。	英語を使って、主体的にペアやグループで話し合ったり、発表したりすることができる。

[illegible]

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和8年度（ 2 年次用） 教科

家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭

科 目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 年次 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：長沢/小林） （2組：長沢/渡部） （3組：長沢/小林） （4組：長沢/村木） （5組：長沢/村木） （6組：長沢/小林）

使用教科書：（ 実教出版 新家庭基礎 気づく力 築く未来 ）

教科 家庭 の目標：

【知 識 及 び 技 能】主体的に生活を営むための基礎的に必要な理解を図り、それらに係る技能を身に付ける努力をする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭と地域及び社会における生活の中で、生涯を見通した生活課題を思考・判断し解決力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、家庭や地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
家族・家庭の意義、地域社会との関わりについて理解を深め、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉える。衣食住・消費や環境など、実習及び実験を通して主体的な生活を営む日々の努力により技能を身につけている。	家庭や地域及び社会における生活の中で生涯を見通した課題について、設定・評価・改善、考察することを通して、根拠に基づいた解決策を論理的な実践から表現することで解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決を主体的に取り組み振り返る中で、改善策を考え地域社会に参画しようとする意識のもとに、自分や家庭、地域の生活を創造する実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	自分の未来予想図を描こう 2030年代に日本社会の主軸世代になっていることを意識し、自らの未来をデザインする力を育成する。 自立と共生 18歳で成人を迎える青年期の準備期間を家庭生活や地域・社会のあり方を広い視野で考える。	自分の将来像を見つめ自己実現を目指し、男女共同参画社会における可能性を探る。 将来の生き方・働き方についてワークライフバランスを考えイメージする。 家族の形や多様な生き方と法律を学び、他者との良い関係づくり、関わり合いを考える。	観察、ワークシート記入、 自分自身について考えるワークシートを通して、自分や人の一生についての考えをまとめることができる。				6
	共に生きる家族 家族と法律の関りについて、明治民法/現行民法の内容と解釈を知る。 自分と親族との関係性を学び、将来の家族構成や相続についての基礎知識を習得する。	明治民法、現行民法及び改正内容について学ぶ。 親族と親等について理解し、家族法との関連を身に付ける。	観察、ワークシート記入、 民法全般についてワークシートを通し、自分や親族関係についての法的な状況について理解することができる。				6
	A 衣服の素材の種類と特徴 衣服の素材である繊維の特徴を知り素材の加工と活用方法を知る。 衣服の構造 立体構成について理解する。 衣服製作技術 エプロン製作を行い、製作技術の修得を行う。	化学繊維・天然繊維の特徴と活用性を学ぶ。 繊維の三原組織を理解し、身近な製品における存在を意識する。 平面生地を活用した立体構成の実習・実技を行う。ミシンの使用方法の修得を行う。自分が身に付けるエプロン製作を行う。	観察、ワークシート記入 繊維の役割、特徴を理解できる。三原組織について構造を理解する。 実技・実習 エプロン製作を通し、被服製品の構造・製作過程を学ぶ				12
	B 栄養と食品のかかわり どのような栄養素があり、どのような働きをするのかを理解する。 食品の栄養素と成分 主に5つある栄養素とその食品の特徴について理解する。	栄養素の特徴を理解し、食材と栄養素の関りについて学ぶ。 5つを基本とした栄養素を理解し、身近な食品における存在を意識する。 食材を活用した調理技術や食文化を学ぶ。	観察、ワークシート記入 栄養素の役割、特徴を理解できる。主な5つの栄養素について構造を理解する。 実技・実習 栄養成分表の見方や検索の方法を知り、これからの食生活に活用する方法を学ぶ。				
	定期考査						1
2 学 期	A 衣服製作技術 製作技術のまとめとして、三角巾の製作を行う。	被服分野のまとめとして、ミシンの使用方法の実技試験及び三角巾製作を行う。	実技試験・観察、作品提出 試し縫いから本縫い、アイロンの使用方法までの実技試験を行う。				8
	B 食品の選び方と安全 食中毒に対する予防法を身につける。 食品表示の見方を理解する。 食品添加物の知識を身につける。	食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ	観察、ワークシート記入、実習 食品衛生について理解し、時期や危険性を知る。また調理実習における衛生管理についても理解する。				
	食事の計画と調理 年齢や性別で異なる1日に必要な食事の目安を知る。自分や家族の食生活の計画と管理ができるようになる。 これからの食生活を考える 現代の食生活を通して基礎的基本的な日本と世界の食生活について学ぶ。	健康的な食生活の必要性を学び、食品の安全性や環境に配慮した食生活について学ぶ。 調理の計画から実践まで衛生に配慮し行う。 先進国の食品ロスについて関心をもち、地球規模での人の営みを考える。	観察、ワークシート記入、被服実習 食生活を取りまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。また調理実習において作業の流れを判断しながら取り組むことができる。				14
3 学 期	消費生活の現状と課題 消費者の意思決定が社会を動かすことを知り、自己のライフスタイルを持続可能なものとする責任をもつて自覚しながら生活できる意識を身につける。 暮らしと経済 経済と社会の関りについて学び収入と支出、投資とリスクの関係をj知る。	主体的な消費行動、適切な契約と支払い方法、消費者の権利と責任、持続可能社会を目指す消費に於いて、消費者としての責任や行動が地球環境を動かすことを知る。 国民経済と国際経済について学びこれからの金融と商品の知識を知り、実践的な経済活動を構築できるようにする。	観察、ワークシート記入 消費行動について、さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証し、意思決定への過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身に付けている。 消費生活まとめ レポート等				8
	住生活 賃貸住宅の契約について、具体的な賃貸契約用語を理解し、間取りの読み取り方を含め、今後の実践生活の中で活用出来るようにする。	ICTタブレットを活用し、様々な賃貸住宅情報を読み取る。契約実践をシュミレーションし、実際にかかる費用を算出できるようにする。 簡単な間取り設計を学び実生活に役立てる。	観察、ワークシート記入 賃貸契約について、様々な情報を収集しながら、自分の希望物件について検証し、契約への過程とその重要性について理解でき、また集合住宅についての知識を身に付けている。 契約のまとめ レポート等				14
	定期考査						1
						合計	70

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

総合的な探究の時間 科目 人間と社会

教科 科： 総合的な探究の時間 科目： 人間と社会

単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：堀・佐藤末）（2組：海老澤・儀部）（3組：町田・長岡）（4組：川島・小坂）（5組：及川・川崎）（6組：関野・藤野）

使用教科書：（人間としての在り方生き方に関する教科「人間と社会」改訂版教科書）

教科 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】 体験的な活動を通して、社会の探究、進路探究を行い、自主的に知識を深める。

【思考力、判断力、表現力等】 10年後を見すえた自己の生き方・あり方を文章や言語にまとめて発表する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 社会に貢献する意義等を深く理解し、よりよい生き方を主体的に選択する力を身につける。

科目 人間と社会 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
体験的な活動を通して、社会の探究、進路探究を行い、自主的に知識を深める。	10年後を見すえた自己の生き方・あり方に関して時間をかけて考えさせる。	体験活動などを通して、社会に貢献する意義等を深く理解するとともに、よりよい生き方を主体的に選択する力を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	進路ガイダンスを受け、自己の進路活動に繋げる。	進路ガイダンスを受け、今後の高校生活の見通しをもつ。	自己の進路に繋げる意識で、進路ガイダンスを受けているか。	○	○	○	1
	本校卒業生の受験対策を参考し、自己の進路活動に繋げる。	一人1台端末を使用し、合格体験記を読む。ワークシートをまとめる。	自己の進路に繋げる意識で、合格体験記を読み取っているか。	○	○	○	3
	自分の到達度を客観的に理解をして、自身の学習に繋げる。	一人1台端末を使用し、スタディ・サポートを登録し、活用できるようにする。	自己の到達度をもとに、日々の勉強への取り組みを鑑みる。	○	○	○	4
	【文系理系ガイダンス】にて、各大学の文系・理系の教育の学部の特徴を理解する。	学部、学科の選び方などの具体的な内容を指導する。	各大学の文系・理系の教育の学部の特徴を理解する。	○	○	○	4
	地域の様々な団体と連携し、体験活動を通じて、社会に貢献する意義等を発見するとともに、様々な年齢層の人々との交流を通じてコミュニケーション能力の育成を図る。	夏休みの課題に向けて、①オープンキャンパスの予定②進路に関わる本を選ぶ読む。③地域社会に目を向けるためのガイドブック作りを考える。	自薦準備を丁寧に行い、主体的に取り組もうとしているか。	○	○	○	6
2 学期	・オープンキャンパスの振り返り。 ・読んだ本の紹介。 ・ガイドブック作りとプレゼンテーション	夏休みの課題のまとめ・発表を行う。友人の発表内容からも、社会や進路に向けての視野を広めていく。	主体的にまとめ、発表活動に取り組み、友人の発表からも、学び取ろうとしているか。	○	○	○	6
	主権者教育、模擬選挙	主権者・成年としての権利と責任について学ぶ。また、模擬選挙を行うことで、投票することの大事さを学ぶ。	主権者・成年としての権利と責任について学び、考えを深めることができたか。社会の一員として、選挙に関わることを理解できたか。	○	○	○	5
3 学期	ブレ課題研究「仮テーマ決め」	インターネットや図書室で関連情報を集める。→ワークシートやTeamsに情報を残す。	「問い」を立てるということを理解する。「問い」に対して、調べ学習するのではなく、「仮説」を立て「調査をする」ということを理解できているか。	○	○	○	2
	ブレ課題研究	個人活動を一人一台端末を利用し、進めていく。課題研究の計画を自分なりに構築する。	「問い」を立てるということを理解する。「問い」に対して、調べ学習するのではなく、「仮説」を立て「調査をする」ということを理解できているか。	○	○	○	4
							合計 35

年間授業計画

東京久米総合 高等学校 令和8年度（2年次用）教科

国語

科目

論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当：（1組：川島）（2組：川島）（3組：川島）（4組：川島）（5組：川島）（6組：川島）

使用教科書：（「精選論理国語」東京書籍）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身につけさせる。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める

【学びに向かう力、人間性等】我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	『ミロのヴィーナス』 【知識及び技能】 理解な語句・表現を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 内容を的確に読み取り要点をつかむ 【学びに向かう力、人間性等】 筆者の論の進み方をとらえようとする	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との關係について理解を深める 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを捉え、論点を明確にしながら論旨を把握する 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に沿って見えないものへと思考を広げる、芸術に対する見方を深めようとしている	○	○	○	6
	『いつもそばには本があった』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続について理解を深める 【思考・判断・表現】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら論旨を把握する 【主体的に学習に取り組む態度】 自己の知識や読書経験を関連付けて、「読書」について意見をまとめている	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	『相手依存の自己規定』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続について理解を深める 【思考・判断・表現】 書き手の意図との關係において多面的・多角的な視点から評価できる 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な例を分析して自己把握についても考えをまとめ、他者に伝えようとしている	○	○	○	8
	『科学的「発見」とは』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続について理解を深める 【思考・判断・表現】 資料との關係を把握し、内容や構成を的確に捉える 【主体的に学習に取り組む態度】 科学的視点に立った、ものの見方や考え方を培おうとしている	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学期	『分人とは何か』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との關係について理解を深める 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを捉え、論点を明確にしながら論旨を把握する 【主体的に学習に取り組む態度】 「分人」という観点から自分とその人間關係について考えを深める	○	○	○	7
	『メディアの変容』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続について理解を深める 【思考・判断・表現】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら論旨を把握する 【主体的に学習に取り組む態度】 人間關係の在り方について自分の考えを深めようとしている	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	『「リスク」と「リスク社会」』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続について理解を深める 【思考・判断・表現】 書き手の意図との關係において多面的・多角的な視点から評価できる 【主体的に学習に取り組む態度】 現代における「リスク」について具体的に考え、話し合おうとする	○	○	○	8
	『環境とは何か』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続について理解を深める 【思考・判断・表現】 資料との關係を把握し、内容や構成を的確に捉える 【主体的に学習に取り組む態度】 持続可能な社会環境の実現に向けた取り組みについて考えを深める	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3 学期	『日本人の美意識』 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・重要な語句の意味をつかみ、段落の關係に留意してまとめる ・各段落の論旨をまとめる ・取り上げられている事柄や問題に注意して、全体の構成を捉える	【知識・技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との關係について理解を深める 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを捉え、論点を明確にしながら論旨を把握する 【主体的に学習に取り組む態度】 「である」価値と「する」価値について自分に引き寄せて考え、現代社会に対する認識を深める	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

久留米総合 高等学校 令和8年度（2年次用） 教科

公民 科目 公共

教 科： 公民 科 目： 公共 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：川崎） （2組：渥美） （3組：渥美） （4組：川崎） （5組：渥美） （6組：川崎）

使用教科書：（ 帝国書院 高等学校 公共/707 ）

教科 公民 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	第1部 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 【思考・判断・表現】 自己形成の課題について考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 【思考・判断・表現】 ・先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、公共的な空間を作る主体としての自己の生き方について考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第3章 公共的な空間における基本的原理	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解できている。 【思考・判断・表現】 ・個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	○	○	○	9
	第2部 よりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 私たちと法	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・法や規範の意義や役割が理解できている。 【思考・判断・表現】 ・日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に行うことができる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	第2章 私たちと政治	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解できている。 【思考・判断・表現】 留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持っている。	○	○	○	9
	第3章 私たちと経済	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・現代の企業の果たしている役割が理解できている。 【思考・判断・表現】 ・現代の企業倫理について考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 AIやITなどの先端技術が発展するなかで、自分の進路や職業選択を考えることができている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

3 学 期	第3章 私たちと経済	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・現代の企業の果たしている役割が理解できている ・持続可能な社会の実現に関する課題を理解している。 【思考・判断・表現】 ・現代の企業倫理について考察できている。 ・社会的課題の原因や背景について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 AIやITなどの先端技術が発展するなかで、自分の進路や職業選択を考えることができている。持続可能な社会の実現に向けて、課題解決に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。 【思考・判断・表現】 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察，構想することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し，探究できている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
						合計	70